

平成29年度教育委員会の事務に関する点検・評価

目 標	施 策	主な取組	外部評価委員会評価
1豊かな心と健やかな体の育成	1子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て支援センター機能の充実 ○ 子育て支援のネットワークづくり ○ 乳幼児健診や育児等への相談活動の充実 ○ 未就園児の活動や預かり保育の充実 	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>外部評価委員会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の取り組みと特に関連性がある。栄養教諭の活用で、朝ごはんの重要性や栄養素についてしっかり学ぶ場を設定するなど食育の推進は必要。 ・ 各学校では学校菜園を利用して、食物を育てて収穫するという学びの場を提供しているが、ニセコ高校の農場を小学生が訪れ農作物と一緒に育てる等異校種間連携するのも良い。
	2就学前教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣など生涯の基礎力の育成 ○ あそぶついででの活動の促進 ○ 英語に親しみ外国人とのふれあいの促進 ○ 幼小の交流、円滑な接続と継続性の確保 	
	3道徳教育・人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の歴史、文化、自然、人々とふれあう活動の促進 ○ 子どもの心に響く道徳教育の推進 ○ 共生共助に係る教育の推進、各種体験活動や交流活動、ボランティア活動の充実 	
	4健康な体づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性教育、薬物乱用防止教育の推進と指導の充実 ○ 学校体育及び運動部活動の充実 ○ スポーツに親しむ体制やスポーツ環境の充実 ○ 安全安心な学校保健の実現 	
	5食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地産地消による学校給食の充実 ○ 正しい食生活の習慣化を図る教育の推進 ○ 食と農に係る体験型教育の推進 ○ 地場生産物を活用した料理教室の実施 	
2生活習慣と社会性の育成	6家庭と連携したより良い生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早寝早起き朝ご飯、挨拶等の基本的な生活習慣の確立 ○ 家庭教育の充実 	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>外部評価委員会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ運動や道徳教育など学校で学んだことを、家庭又は地域に出た時のルールやマナーにしっかり繋げる事が大切。 ・ 非行防止への取り組みに関して、携帯やネットに関する指導や防犯教室等行われていると思うが、引き続き安全対策を行う共に家庭への啓発もお願いしたい。
	7規範意識と社会性を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校や社会のルール、社会の一員としてのあり方を考える学習の推進 	
	8地域と連携した福祉・社会体験学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会体験の機会の拡充と福祉に係る体験学習の推進 	
	9生き方(キャリア)教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤労観、職業観を養うキャリア教育の推進 ○ 外部人材による特別授業の実施 ○ 子どもの心の問題解決を図るスクールカウンセラーの派遣 ○ 児童生徒理解、子どもと向き合う時間の確保 ○ 保護者との面談、授業参観、懇談会等の充実 ○ 保護者との相談体制の整備 	
	10教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青少年教育に関わる団体活動への支援 ○ 青少年の非行防止への取組 	
3確かな学力の育成	12学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善による「よく分かる授業」「集中できる授業」の推進 ○ 学習目標・課題を明らかにし、学習方法を定着させる多様な学習指導の推進 ○ TTや少人数指導、習熟度別指導、教材の工夫など多様な指導方法、形態の展開 ○ 家庭学習の習慣化 ○ ICT機器の有効活用による効率良い授業の推進 ○ 全国学力学習状況調査等の結果の活用と児童生徒一人一人の課題を踏まえた教育の推進 	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>外部評価委員会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と直結した取組である。確かな学力の育成に向けて様々な取組を行っているが、成果が直ぐに目に見えてこないのが悩ましいところ。全国学力学習状況調査での正答率は全国や全道の平均を上回っているところもあるが、自分の考えを文章で現す記述式問題が弱いなど課題が明確化している。 ・ 読書する子が2極化している、スマホ・ゲームへの課題もあるが、自己肯定感が高まっている面は見られる。 ・ 小学校英語学習について、専科教員が加配されており、意欲的に取組んでいる。 ・ ICTの活用について、まずは教員向けに揃えて、使いこなしてから子ども達に揃たほうがよいのでは。
	13基礎・基本の確かな力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後、長期休業中等の補充学習の推進 ○ 確かな学力を保證する一貫性ある小中連携の推進 ○ 家庭と連携した復習、予習等の定着化 ○ 地域に根ざした特色ある教育課程の編成、実施 	
	14高等学校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人材育成を目指す教育内容の改善、充実 ○ 地域の教育資源の活用、高大連携の推進 ○ 個別の教育支援計画、指導計画に基づく個のニーズに応じた指導・支援の推進 	
	15特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の確立 ○ 特別支援教育支援員の活動の推進 ○ 家庭との連携、関係機関とのネットワークづくり 	
	16読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一斉読書、朝読・家読運動の推進 ○ 利用促進に向けた学校図書環境の整備、蔵書の整備 	

目 標	施 策	主な取組	外部評価委員会評価
4学校経営の充実	17学校マネジメントサイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○「ニセコ町学校評価ガイドライン」に基づく教育活動の推進、地域住民等への情報提供の推進 ○計画・実践・評価・改善のPDCAサイクルの確立と過程・結果の公表 	評価 B
	18開かれた学校の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報に留意した学校活動等の情報提供（HP、ラジオなど） ○学校評議員、PTA活動の充実 ○保護者や地域への開かれた学校の推進 ○地域行事等への積極的な参加と協力 ○地域と連携した歴史、文化、農業等の体験学習の充実 ○身近な教育資源を生かした教育の推進 ○多様な人々が協働する体制、ネットワークづくり 	外部評価委員会意見 ・ コミュニティスクールとの係わりが深い。部会も立ち上がり、具体的な取り組みがどんどん進むことに期待したい。今後は「開かれた学校づくり」から「地域と共にある学校づくり」へのシフトが必要。
	19ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○専門職としての資質と授業力を高める実践的研究の推進 ○教職員の自主的研究活動の促進 ○教育関係機関等の積極的活用、研究会・研修会への参加促進 ○幼小中高教職員の交流・協働の推進 ○授業公開等、授業研究の充実 ○校長による個々の教職員の目標管理と指導の推進、資質能力の向上 ○校長による全教職員の授業参観、個別面談の実施 ○指導主事や関係機関等の積極的活用 	評価 B
5教職員の資質能力の向上	20教職員研修・教育研究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幼小中高教職員の交流・協働の推進 ○授業公開等、授業研究の充実 ○校長による個々の教職員の目標管理と指導の推進、資質能力の向上 ○校長による全教職員の授業参観、個別面談の実施 ○指導主事や関係機関等の積極的活用 	外部評価委員会意見 ・ 服務について、全国的に憂慮すべきことが多く起きている。 ・ 21の指導力の向上については、自己評価がCとなっているが、長期休業中に法定研修、道立研修所研修、後志教育研修センターの研修に参加し、指導力の向上を図っている。今後も教員の指導力向上に取組む必要がある。
	21教職員の指導力の向上		
	22教職員の指導体制の充実		
6教育環境の充実	23学校のICT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○PCやネットワーク等の設備、電子教材・学習ソフトの充実 ○児童生徒の情報活用能力の育成 ○情報モラルの涵養等、適切な情報教育の推進 ○地域づくりを担うリーダーの育成 ○学校支援地域本部等、学校を支援する活動の促進 ○保護者や地域住民の参加によるコミュニティスクール制度についての検討 ○地域の特色を生かした環境教育の推進 ○環境保全など関係機関と連携した学習機会の提供 ○環境教育推進のための整備 ○児童生徒の地域活動への参加促進 ○子どものまちづくり参加の充実 ○防犯教室の開催、防犯指導の徹底 ○街頭啓発、交通安全教室等の開催 ○通学路の安全対策の促進 ○想定被害を考慮した防災教室、避難訓練の実施 ○学校安全計画、危機管理マニュアルの徹底と見直し ○地域の見守り活動の促進 ○いじめ、不登校等の早期発見、早期対応 ○幼小中高の連携による問題の未然防止 ○教育委員会活動の積極的な情報発信 ○教育現場のニーズや課題等への適切な対応 ○教育委員、事務局職員の資質能力の向上 ○教育委員会事務の点検評価及び教育行政の改善、充実 	評価 B
	24地域による学校支援の推進		外部評価委員会意見 ・ 学校ではPTAの協力により、子ども達の安全に取組んでいる。 ・ 25の環境教育の推進については、自己評価がCとなっているが、各教科が環境教育に繋がることばかりであり、すでに日常的に取組みを行っている。 ・ 「環境モデル都市」として、より取組を進めていく必要がある。
	25環境教育の推進		
	26子どもの地域活動への参加促進		
	27防犯・交通安全・防災意識の向上		
	28教育委員会運営の充実		
7生涯学習・スポーツの充実	29生涯学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○町民の学習ニーズの把握、リーダーの養成 ○学習情報と相談機能の充実 ○関係機関と連携した学習機会の提供 ○生涯各期の学習活動の促進 ○学習成果活用場の充実 ○公民館機能をもつ町民センターなど生涯学習施設の活用促進 ○スポーツ施設の整備 ○地域スポーツ活動の促進 ○スポーツ指導者やリーダーの育成 ○各種スポーツ大会の充実、レクリエーション的スポーツの普及などスポーツ活動の裾野の拡大 	評価 B
	30生涯学習施設の充実		外部評価委員会意見 ・ 教育委員会では様々な活動を行っており、スポーツ各分野の取組が充実している。少年団活動が盛んで、スポーツに携わる子どもが多い。 ・ スポーツ施設の整備は、多くの費用がかかると思うが、計画的に対応していただきたい。 小学校から中学校への部活動に関し、偏りがでているので、円滑な接続を図る工夫が必要。
	31生涯スポーツの活動の推進		

目 標	施 策	主な取組	外部評価委員会評価
8文化・芸術の振興	32文化財の保護とふるさと意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種文化財の調査・保護・活用 ○ 地域に根ざした民俗文化財の継承と育成 ○ 地域の自然、歴史、文化、産業等に関する体験学習の推進 ○ 学校におけるふるさと教育、産業教育、環境教育の充実 	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">A</p>
	33文化・芸術にふれる機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化・芸術に係る講座等の充実 ○ 文化・芸術団体の育成と活動の支援、文化イベントの充実 ○ 優れた文化・芸術を鑑賞する機会の拡充、体験機会の提供 ○ あそぶつくの利用促進、計画的な蔵書整備 ○ 学校図書館との連携による読書活動の充実 	<p>外部評価委員会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あそぶつくや有島記念館では様々な取組を行っている。 ・ 旧サフォーク牧場跡地等の活用も気になるところ。 ・ 藤倉作品の登録等の完了後はもっと色々なことができるので、期待している。
	34文化・芸術施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有島武郎の人、作品、思想の継承 ○ 有島記念館の今後の運営のあり方の追究 ○ 企画展や講演事業、音楽コンサートなど芸術鑑賞機会の提供と充実 ○ 若手アーティストへの支援 ○ 有島記念館及び記念公園の整備、自然環境と農村景観の保全に配慮した周辺整備 	
9異文化共生の推進	35国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際理解、異文化理解教育の充実 ○ 大人を対象とした国際理解、異文化理解学習の推進 ○ ALTによる外国語指導の充実 ○ 発達段階を踏まえた小学校外国語教育の充実 ○ インターナショナルスクールとの交流促進 	
	36国内外交流事業の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校間交流、世代間交流など多様な交流活動の促進 ○ 地域の国際化、海外への情報発信の充実 ○ ニセコ町国際交流推進協議会の活動支援、町民の主体的活動の促進 	<p>外部評価委員会意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本町では、北海道インターナショナルスクールや国際交流員との交流が充実している。 ・ 放課後子ども教室で取組んでいる「ファンイングリッシュ」は評価できる。一方で、イベントがあっても行こうと1歩踏み出すことが難しい子どもも多い。 ・ 子ども達が学んだ英語を使う場が少ない。国際交流員等とコミュニケーション取れる場の設定は必要。

作成・担当
二七コ町教育委員会
学校教育課総務係